

シリーズ・**病院**

茅ヶ崎徳洲会総合病院

渡邊京子

茅ヶ崎徳洲会総合病院は1980年に開設され、JR茅ヶ崎駅南口から徒歩5分の地にある病床数419床の病院です。徳洲会の理念である年中無休、24時間オープンな救急治療体制を維持し、茅ヶ崎市救急搬送の約50%を受け入れている救急病院です。

特徴として、本年度より全国で始まったいわゆるスーパーローテート方式の臨床研修を、開設当初よりとりいれており、アメリカ式の卒後研修を行っています。1年次研修医は内科、外科、産婦人科、小児科、救急総合診療部をローテートし、2年次はそれら5科に加え、僻地医療や精神科、麻酔科、皮膚科などの科を選択しています。3年次以降は後期研修として自分の専攻したい科——内科や外科、産婦人科、救急が多いですが——を中心として引き続き研修する医師、他の病院に就職する医師、大学病院に戻る医師などさまざまなようです。研修医募集要項に1ヶ月に10回の当直と明記されており、ガッツのある研修医が全国から集まってきます。実際の当直数は、今年は研修医の数が22名と多いですし、最近では研修医の労働時間も問題になっていますので月6～7回位のようなようです。

さて皮膚科が常勤になったのは1994年で、徳洲会理事長の徳田虎雄が前東京医科歯科大学教授の西岡清先生と同窓のためという噂を聞きましたが、東京医科歯科大学から派遣されています。当初は常勤2



左から関医師、渡邊、大谷医師

名で、おおよそ1年で2人とも交代していましたが、私は1998年より赴任し、途中で医局と病院を丸め込んで、常勤3人として現在に至ります。なぜ6年も異動しないかといいますと、ひとつは東京から距離があって来たい人がいないということ、ひとつは2000年に出産したのですが、病院に良い院内保育所があること、それから東京に比べ、神奈川、特に湘南がとても住みやすい、育児しやすいことなどで長くなっています。

今年度は3年目の大谷恵理先生、2年目の関玲子先生が東京医科歯科大学から派遣されており、女医3人で、さらに外来スタッフとして看護師さん2名、事務クラークさん1名と女ばかりで、毎日楽しく仕事をしています。外来は月から土曜の午前と、火、水、金曜の午後で、手術が月曜午後、訪問診療が月1回あります。地域の病院ということでcommon diseaseは多いですが、珍しい皮膚疾患も程よくみることができ、なるべく学会で発表するようにしています。また最期は自宅の近くでという患者さんが多く、皮膚悪性腫瘍などは癌センターにお世話になることもありますが、当院での看取りも年数人いますので、研修の先生には勉強になるようです。外来



病院の外観

患者数は1日平均80~90人、入院は1日平均3~4人で、病院が医師会に入ってから紹介患者数も増えてきました。

徳洲会と聞くとどんな変わったところかと思われるかもしれませんが、大学から派遣されて皮膚科診療をするぶんには、他の病院と変わりません。ただ徳洲会に就職した医師は、全国にある系列病院に転勤したり、手伝いに行ったり、当たり前で週6日仕事をしています。あと選挙になると、もちろん強制はされませんが、他の職種の職員が自由連合の応援をしています。

この病院に着任するまでに、東京医科歯科大学病院、都立墨東病院など公立病院で働くことが多かったのですが、今までと比べて良いと思うのは、1つは医師が医師の業務に専念できる、余分な仕事が少ないということです。例えば、介護の必要な患者さんが退院するというと、家庭のうけいれの準備が大変だったり、老人施設の入所希望の場合、適当な施設をみつけるのが大変ですが、書類を書いておくとケアマネージャー、ケースワーカーがその後の業務をやってくれます。また、オーダーを出しておくとか採血、点滴、注射は看護師さんがほとんどやってくれます。公立と比べて厳しいのは、やはり経営が黒



字になるように、医療収入の目標を各科にたてて、それを達成するように求められたり、医療講演を頼まれたり、なかなか医療機器を買ってもらえないことでしょうか。皮膚科に必要な機器は他科よりは少ないですが、それでもデルマレイを買ってもらうのに数年がかりでした。

湘南の地が気に入ってこの病院が長くなってきましたが、長くいると人間関係ができ、仕事がしやすくなります。反面、今の位置に安住し、進歩なくなる可能性もあります。仕事と育児のバランスを上手にとりながら、自分のスキルアップを常にこころがけたいと思います。しばらく神奈川でお世話になるつもりですので、これからもよろしく願い申し上げます。

神奈川県立がんセンター

宮本秀明

最寄駅は相鉄線の二俣川駅です。横浜駅からは急行で1つ目、12分のこの駅から徒歩15分の丘の上に病院はあり、バスの通る道路を挟んで運転免許センターと対峙しています。病床数415床を有していますが、隣地の県衛生研究所跡地への拡張計画が進行中です。私は平成11年4月に赴任し「神奈川県立がんセンター皮膚科部長」という、肩書は偉そうな役職についていますが皮膚科の常勤医師は私1人しかおらず、部長兼「×○い」（今は差別用語っぽいので「用○員」あるいは「技能員」というべきか）といったところが現状です。

神奈川県立がんセンターは昭和38年4月にこの地

で6科、31床で発足した「神奈川県立成人病センター」を前身とします。その後徐々に発展し、昭和61年4月に現在の名称に変更されると同時に、皮膚科も設置され許可病床415床となりました。前任者でもある初代部長は内山光明先生で13年間勤務の後、現在磯子区で皮膚科医院をご開業中です。

（以下★はホームページからの抜粋）

- ★火・金（新患・再来とも受付午前9時~11時30分）。
- ★新患は紹介予約制。
- ★救急は再来患者の急変時のみの対応です。



スタッフ＝常勤医師：宮本部長1名、非常勤医師：1名（主として手術時）。

火・金の外来受付は午前中ですが、他科の入院患者の併診も受けているので診察全てが夕方5時に終わることは稀です。また上記の受付時間内に来院しても診察が午後3時、4時になってしまう（勿論、外来患者が終わるまでは昼休み抜きでぶっ続けでやっています）こともたまにありますので、ご紹介患者には申し訳ございませんが時間がかかる旨お伝えください。火、金の外来診療日以外では木曜午後がオペ（1～3件）、月、水、木も皮膚科の入院患者だけでなく他科の入院患者の診察をしています。外来（通院）化学療法は月～金まで5日間（1日3時間位を要する）を1クールとして行うことが多いです。「がんセンター」といえども皮膚癌を診てい

ばよいというものでもなく、皮膚癌以外の他科の皮膚疾患も手ごわいです。水虫、田虫、単純疱疹、带状疱疹はなんのその、ほとんどが担癌患者なので抗がん剤、抗生剤等の薬疹の相談は頻繁です。諸科で先進医療を受けているはずなのに、ア○リ○クや××鮫だかのエキスの愛飲者も多く、そのために全身真っ赤になる人もおり、その際病院処方薬との原因薬の鑑別に時間がかかって次の治療の開始を延期することもあります。また血液科では造血幹細胞移植を行っているため、GVHDないしそれと鑑別を要する発疹がやたら多いです。夜6時、7時に皮膚生検を行って病棟ナースに好かれること甚だしく、また、移植後の患者はTENやS-J症候群になり易いので油断できません。

◎お願い：生検済みの患者をご紹介時は、病理レポートだけでなくプレパレートも見せて下さい。プレパレートは後日お返し致します。

● 交通案内 ●



北里大学病院

高須 博
皮膚科

北里大学病院は、人口62万人の相模原市にあり、昭和46年7月に開院し34年目を迎えています。平成11年4月には新棟を増築し、外来は新棟3階へ移動し、病棟は既存のままです。既存棟は老朽化が目立っており、平成22年に新病院を開設すべく勝岡憲生先生を委員長とする新病院基本構想委員会が立ち上

がったところであります。

医局員の構成は、初代教授である西山茂夫先生（現名誉教授）から平成6年に引き継ぎ丁度10年目の節目を迎える勝岡教授。脈管肉腫に人生をかける増澤幹男診療教授、感染免疫を専門とする基礎研究の要である藤村響男講師、筆者（講師。専門分野：

腫瘍・レーザー)、新井達講師(膠原病・アレルギー)、宮田聡子講師(脈管)、齋藤典充診療講師(皮膚外科・脱毛)、白井京美助手(膠原病)、富田昌宏助手(水疱症)、前島英樹助手(乾癬・脱毛)、三井純雪助手(皮膚外科・腫瘍)、以下病棟医が4名、研修医1名、大学院2名の18名で医局を支えています。

勝岡体制となり、新たな試みとしてお互いの顔がわかる病診連携を目指し、今年で6回目を迎える北里皮膚フォーラム(紹介して頂いた患者殿の報告会とミニレクチャー)、3回目を迎える相模原皮膚泌尿器科医会との共催でおこなう相模原皮膚セミナー(講師の先生に御願ひして基礎から臨床までを3時間にわたりレクチャー)を開催してきました。

最後に医局(著者)の悩みを少し聞いてください。

①研修医のスーパーローテーションが始まり、今年と来年は研修医が入局しないことによる人員不足。②入院医療に係る包括評価制度(DPC)導入により、収入面からみた皮膚科の評価。③治療の標準化、医療の質の向上、効率化、安全対策等に貢献するクリティカルパスを、皮膚疾患でいかに作成していくか。④電子レセプトに対応するための皮膚科病名の標準化。⑤教授が怖い、等いろいろありますが書いて少しスッキリしました。

神奈川県相模原市にとって必要不可欠な大学病院を確立するべく全員でガンバッテいます。神奈川県皮膚科医会の先生方、今後とも宜しく御願ひいたします。



医局員

